川越時間旅行 25

市立博物館 Tel222-5399

絵図で見る江戸時代の川越

写真は元禄6年（1693）の岸村（現在は岸町）の村絵図の一部です。太い朱色の線は「江戸海道」と書かれていて、今の川越街道にあたります。図の中心あたりには、ちょうど烏頭（うとう）坂の周辺地域が描れています。同街道をはさみ短冊状に区切られ連なっているのは、そこに建つ屋敷の表示です。また、写真上部に広がる緑色の帯状部分は草地を意味し、ちょうど崖の部分にあたります。

一見平面的な絵図も細かく見ていくと、当時の山野や河川などの自然の様子が分かるだけではなく、耕地・集落・町並みなどのほか、土地の高低差などの様子を立体的に思い描けます。

現在、市立博物館では、企画展「絵図で見る川越」を開催中です。江戸時代から明治時代初期までの様子を、村や町を中心に紹介しています。この機会に、絵図から川越の歴史を眺めてみませんか。

■企画展「絵図で見る川越」
日程…5月11日(日)まで　経費…入館料

武蔵国入間郡岸村絵図（個人蔵）の一部

市民農園

市民農園とは、レクリエーションなどを目的に、農作業を体験したり、自家用の野菜や花を栽培したりできる小区画の農地のことです。

渡部雄治（わたべゆうじ）さん（連雀町・77歳）は、「鴨田体験農園」で野菜を栽培して約16年。農作業とは全く関わりのない仕事をしていましたが、定年退職後、趣味として野菜作りを始めました。「始めたころは何も分からなかったので、本を読んで勉強をしました」と当時の思い出を話します。今では、昨年度作ったサトイモが、鴨田体験農園組合の野菜品評会で金賞を受賞するほどの腕前。腐葉土や苗も自分で作り、栽培を楽しんでいるそうです。「限られたスペースですが、作付け計画を立てて年間12～15種類の野菜を栽培しています」と笑顔で話す渡部さん。手間を惜しまず、今日も市民農園で野菜作りに励んでいます。

土づくりから丁寧に行います

今が旬！4月の川越野菜　市内の直売所などで購入できます

カブ、ホウレンソウ、トマト、キュウリ、コマツナ、ブロッコリー、ネギ、イチゴ、キャベツ、大根、水菜、新たまねぎ、のらぼう菜、レタス、春菊

編集後記 どんぐり

川越駅西口駅前広場が生まれ変わりました。歩行者用デッキや思いやり乗降場、触知案内板など、利用者が安心して快適に通行できるよう整備されています。同駅前広場が川越の新しい魅力のひとつとして、賑わいの場となっています。

新しいスタートといえば、ピカピカのランドセルを背負って登下校する子どもたち。「こうつうあんぜん」と書かれた黄色いカバーが付いた、体よりも大きなランドセルを揺らして元気に歩く姿に、春の到来を感じるようになりました。しっかり手を上げて横断歩道を渡る様子に、改めて「交通安全」の大切さに気付かされました。

点字と文字を組み合わせた表示がされている「触知案内板」

広報川越1316
■発行日／平成26年4月10日（毎月10日・25日発行）
■発　行／川越市　〒350－8601埼玉県川越市元町1丁目3－1　http://www.city.kawagoe.saitama.jp/
市役所代表 Tel049－224－8811　Fax049－225－2171
■編　集／広報室　　印　刷／㈲新広社

この印刷物は、グリーン購入法に適合する紙を使用し、印刷用の紙へ、リサイクルできます。リサイクル適性Ⓐ
私的利用の範囲を除き、記事や写真の無断転載を禁止します。